

WedsSport

LEXUS

Racing Development  
TRD

ADVAN  
YOICHHAMA

★☆☆☆☆  
Win Element Racing  
北陸自動車競技グループ

アルファプロデュース

NUTECH

JMS

AD アイシン開発

ETAS

INTREXAMA

KDC

705

ENDLESS GruppeM

KTEL REAR WINDOW MONITOR

KYB ÖHLINS

TAKATA ODYSSEY

SARD APP

BRIDE BILLION

YAMAHA

TOKOH

WedsSport  
Racing Team  
with BANDOCH

2009 SUPER GT OKAYAMA GT300km RACE



- 開催日: 2009年3月21日～22日
- コース: 岡山国際サーキット(全長3.703km)
- 天候: <予選> 晴 <決勝> 雨
- 路面コンディション: <予選>ドライ <決勝>ウエット
- チーム: WedsSportRacingTeam with BANDOCH
- 車名: ウェッズスポーツIS350 <GT300 ゼッケン19>
- ドライバー: 織戸 学 / 片岡 龍也
- 監督: 坂東正敬
- 観客動員数: 予選10,500人 / 決勝23,000人

WedsSport

LEXUS

Racing Development  
TRD

ADVAN  
YOKOHAMA

★ウエッズアイ★  
Weds E-Racing Racing  
北陸自動車競技クラブ

アルファプロデュース

NUTEC

JMS

AD アイシン開発

ETAS

INTERFAMA

KBC

705

ENDLESS GruppeM

KTEL REAR WEDS  
MONITOR

KYB ÖHLINS

TAKATA ODYSSEY

SARD APP

BRIDE BILION

YOKOHAMA

TOKOH

2009年SUPER GTが始まる。

今年は100年に一度の不況といわれているが、モータースポーツにとってその影は濃い。しかし、レーシングプロジェクトバンドウを応援していただいているスポンサー様のおかげで今年も開幕戦に臨むことが出来ました。必ずチャンピオンを勝ち取るレースをお見せしたいと思います。

昨年、金曜日にフリー走行、土曜日に予選と分かれていたスケジュールが土曜日の1日となり、チームにとっては、セッティングを瞬時に考えていかなければならない。そして、持ち込みセットが重要な年になりそうだ。

### 3月21日(土)

フリー走行 9:00~10:30(混走) / 10:30~10:45(GT300)

天気: 晴れ / 路面: ドライ 気温8度 / 路温13度

肌寒いが春らしい天気の中、開幕戦のフリー走行が始まった。

スタートドライバーは織戸選手。

車のセットアップは前回の岡山公式テストで良いセッティングが出ている。

予選に向けてのタイヤチョイスと細かい調整にとどまった。3LAP目に1分33秒291を記録しトップタイムとなる。2番手にはポルシェエンジンに積み替えたヴィーマックの5号車マツハGOGO GO車検320Rマツハ号3番手は今年からフェラーリにスイッチした81号車ダイシン アドバン Ferrariとなる。

気温、路温も少しずつ上がり、全車落ち着いてタイムが出てきたとき、19号車ウエッズスポーツIS350は4番手であったが7LAP目に1分32秒526を記録し、再びトップに返り咲く。ここで片岡選手に交替する。

片岡選手もセッティング方向が織戸選手と同じ方向のため、順調に1分33秒台を記録していくが、5LAP目には赤旗のためピットイン。

ニュータイヤに履き替え、7LAP目には自己ベストの1分32秒738を記録した。この時点での順位は19号車ウエッズスポーツIS350がトップタイム。

2番手に7号車M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7、3番手には11号車JIMGAINER ADVAN F430が来ている。17LAP目にドライバー交代の練習でピットイン。

今年は元GT500ドライバーのコンビなので作戦の選択幅が広く、スタートドライバーを固定することもない。どちらのドライバーがスタートを担当しても安定したレース戦略を立てられる。2LAP走ったところでGT500との混走時間が終る。タイヤ交換と予選のための細かい調整を行い、GT300占有走行となる。予選のための走行となり、4LAPの走行で午前中のフリー走行が終わった。

結果、1分32秒526でトップになったが、2番手7号車M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7が0.06秒差で2番手、3番手には81号車ダイシン アドバン Ferrariで0.18秒差であった。

今回の走行を見ると、1秒の間に6台が入った。午後の予選は接戦となるだろう。



### 3月21日(土)

予選1回目 13:15~13:45(混走) / 13:45~13:55(GT300)

天気:晴れ / 路面:ドライ 気温10度 / 路温16度



アルファプロデュース



ETAS



GT500との混走時間は片岡選手からのスタート。

3LAP目に1分32秒670を記録し、暫定トップに立つ。

その後、スーパーラップ用のセッティングのため、織戸選手に交替。

混走のため、クリアラップが取れず、33秒台で走行するも予選トップのままの走行が続く。細かい調整を繰り返しつつ、混走時間が終了するが、GT300占有走行3LAP目には1分32秒517を記録した。

結果、予選1回目はトップタイムで終了し、スーパーラップ進出が決定した。

今年からは8台がスーパーラップ進出と変更された。

しかし、フリー走行と同じく、2番手には7号車M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7が0.1秒差、3番手には2号車プリヴェ アップル 紫電が0.2秒差で着いてくる。スーパーラップも同様、1秒以内の攻防戦となるだろう。

スーパーラップ 14:45~16:00

天気:晴れ / 路面:ドライ 気温17度 / 路温27度

トップで予選1回目を通して為、スーパーラップの走行順は最後となる。

1番目の走行は予選1回目10位の74号車COROLLA Axio apr GT、1分33秒246を記録する。このタイムが基準となり、46号車エスロード MOLA Z、81号車ダイシン アドバン Ferrari、43号車ARTA Garaiya、11号車JIMGAINER ADVAN F430と次々にタイムを塗り替え11号車JIMGAINER ADVAN F430は1分31秒860を記録し、暫定トップへ。

今年の新車でダウンホースを減らした09年レギュレーションでの31秒台は脅威である。2号車プリヴェ アップル 紫電、7号車M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7とタイムアタックは続くが、ともに32秒台。

最後の出走、19号車ウエッズスポーツIS350がタイムアタックを開始する。

セットも決まり、織戸選手の渾身のアタックが始まる。

すべてのセクションを安定した走行でまとめ、フィニッシュラインを通過したときには、1分31秒964を記録、2番手のタイムとなった。

トップは11号車JIMGAINER ADVAN F430で19号車ウエッズスポーツIS350との差はわずか0.1秒、31秒台を記録したマシンはこの2台しかなく、3番手の43号車ARTA Garaiyaも0.1秒差で、タイム差1秒以内には7台のマシンがひしめいていた。

今年の戦いは接戦になるのは間違いない。

最終戦まで気の抜けない戦いが続く予想されるスーパーラップだった。



## 監督、ドライバーコメント

坂東監督

織戸選手のアタックは完璧だったので2位でも満足しています。  
ソフトタイヤを選んだのでタイムは上がると思ってました。

明日の天気は雨だと思うのでまずは完走、ミス無しで行けば結果はついてくると思います。スーパーラップ全体を見ると今年は混戦になりそうですね。

勝負は明日です。

織戸選手

今年初めての2DAYでどんな流れになるか不安はあったが、マシンに関しては前回のテストもありよい感じに仕上がっていた。午前のフリー走行、午後の予選1回目はトップタイムできていたが、ミスの無い走りだっただけに、ポールポジションを取れなかったことは悔しい。明日のレースは天候が読みにくい表彰台の真ん中を目指したいと思います。

片岡選手

今年の体制は前回のテストから順調にしている。  
午前中のフリー走行、午後の予選1回目もトップタイムで来ているので良い感じだと思う。スーパーラップは他のチームもかなりのレベルで仕上がってきているので接戦となったが、自分としてはこの体制で最初のレースなので、表彰台の真ん中を狙いたいと思います。



WedsSport

LEXUS

Racing Development  
TRD

ADVAN  
YOICHHAMA

★☆☆☆  
Win Element Racing  
北陸自動車競技クラブ

アルファプロデュース

NUTEC

JINS

AD アイシン開発

ETAS

INTERFAMA

KBC

705

ENDLESS GruppeM

KTEL REAR WINDOW MONITOR

KYB ÖHLINS

TAKATA ODYSSEY

SARD APP

BRIDE BILION

TOKOH

TOKOH

3月22日(日)

フリー走行 9:20~9:50(混走)  
雨/ウェット 気温15度:路温15度

天気予報の通り、夜中から雨が降っていたが、弱い雨足で降ったり、止んだりの繰り返し。横浜タイヤでは、今回からニュータイプのウェットタイヤを用意してくれたため、織戸選手からのスタート、深溝のウェットタイヤをテストする。

4LAP目には1分46秒372を記録、ピットに入り、浅溝のウェットタイヤをテストするが、1コーナーでGT500の車両にラインを譲った際、はらんできたこの車両に押し出される形でコースアウト。牽引されてコースに復帰したものの、ステアリング系に異常を感じ、コースサイドに停まってしまった。車両が戻って破損状況を調べてみると、ホイールが割れており、フロントの足回りのトーロッドが曲がってしまった。メカニックの懸命な作業が始まる。

なんとかサーキットサファリ後に作業が終わり、片岡選手がマシン確認、問題がなく走行できたので、不安なく決勝に望むことが出来た。メカニック、スタッフの迅速な作業が功を奏した。



3月21日(日)

決勝 14:00~(82LAP)GT300は77LAP  
天気:雨 / 路面:ウェット 気温16度 / 路温17度

降ったり止んだりの不安定な雨の中、決勝が始まる。

午前中のフリー走行で接触があったため、メカニックは決勝に間に合うように作業をしていた。ウォームアップで最後の確認を片岡選手が行った。今回のスタートドライバーは片岡選手。深溝のレインタイヤで出走する。スタート直後の強い雨により、決勝はセーフティカースタートとなる。2LAPのセーフティカーのあとレースが始まった。

トップの11号車JIMGAINER ADVAN F430、2番手19号車ウエッズスポーツIS350、3番手43号車ARTA Garaiyaの三つ巴の戦いが続くが6LAP目に43号車ARTA Garaiyaが19号車ウエッズスポーツIS350に挑み、サイドバイサイドの攻防戦が続いたが、19号車ウエッズスポーツIS350は43号車ARTA Garaiyaかわされ3番手に落ちた。8LAP目には43号車ARTA Garaiyaがトップに立つが11LAP目に周回遅れのマシンに接触し後退する。

天候は相変わらず不安定な雨で各チームの戦略が難しくなっていく。

11LAP目、19号車ウエッズスポーツIS350の片岡選手は11号車とのバトルを制しトップに躍り出る。その後は順調に周回を重ね15LAP目には2番手の11号車JIMGAINER ADVAN F430に4秒以上の差を付け単独走行となるが、不調なGT500マシンに抑えられマージンを削られていく。21LAP目には11号車JIMGAINER ADVAN F430がすぐ後ろに迫ってきたが、3番手に上がってきた7号車M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7も追いつき11号車JIMGAINER ADVAN F430とのバトルが始まる。23LAP目には2番手に7号車M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7の谷口選手が追いつき、19号車ウエッズスポーツIS350片岡選手とのバトルとなったが、28LAP目には19号車ウエッズスポーツIS350片岡選手が大きくラインを外れその際に7号車M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7谷口選手がトップに躍り出た。

WedsSport

LEXUS

TRD

ADVAN  
YOKOHAMA

★タイヤ★  
Win Element Racing  
北陸自動車競技クラブ

アルファプロデュース

NUTECH

JIMS

AD アイシン開発

ETAS

INTERFAMA

KBC

705

ENDLESS GruppeM

KTEL REAR VIEW MONITOR

KYB ÖHLINS

TAKATA ODYSSEY

SARD APP

BRIDE BILION

TOYOTA

TOKOH

横浜タイヤはニュータイプのウェットタイヤを用意してこのレースに挑んでいる。今回のコンディションに合っているタイヤなので7号車 M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7、19号車ウエッズスポーツIS350、11号車JIMGAINER ADVAN F430共に横浜タイヤユーザーらしく、トップから3番手を独占していた。

38LAP目には3番手11号車 JIMGAINER ADVAN F430がピットイン、この頃からGT300クラスのピット戦略が始まる。40LAP目には序盤に接触、ドライブスルーペナルティを受けていた43号車ARTA Garaiyaが4番手まで浮上してピットイン。45LAP目には7号車 M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7がピットインする。

19号車ウエッズスポーツIS350は20LAP目からいつでも交替ができるよう準備をしていたが、タイヤのマッチングと片岡選手の安定したタイムによりギリギリまで引っ張る作戦に変更、この時点でトップに返り咲く、2番手、2号車プリヴェ アップル 紫電、3番手、7号車 M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7となる。48LAP目に19号車ウエッズスポーツIS350はピットイン、織戸選手に代わる。後半も深溝のウェットタイヤで走行する。

コースに戻ったときには2番手だったが、50LAP目には2号車プリヴェ アップル 紫電がピットに入り、これでトップとなる。2番手の7号車 M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7とは、23秒の-marginがあり、残り周回数22LAPは余裕に思われたが、ドライブスルーペナルティを受けている43号車ARTA Garaiyaが猛追してきた。57LAP目には2番手の7号車 M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7とは30秒差、3番手の43号車ARTA Garaiyaは35秒差であったが、61LAP目には3番手43号車ARTA Garaiyaが2番手の7号車 M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7に追いつき、62LAP目には2番手に浮上、19号車ウエッズスポーツIS350との差は28秒ある。

しかし、1LAPごとに2秒近いタイム差を詰められ70LAP目には16秒差まで追いついてきたが、その後タイム差は変わらなくなり、77LAP目に19号車ウエッズスポーツIS350はトップでチェッカーを受けた。

開幕戦、ガチンコ勝負を制した19号車ウエッズスポーツIS350。

昨年から速さは見せ付けていたマシンが強さを携え2009年のSUPER GTに戻ってきた。今年のGT300クラスは混戦模様と予想するが、開幕戦でのポイントは大きな意味を持つ。次回の鈴鹿レースは新しいサーキットとなるが、ここでも表彰台の真ん中を目指し、頑張っていきたいと思います。



WedsSport

LEXUS

Racing Development  
TRD

ADVAN  
YOICHHAMA

★スタア★  
Win Element Racing  
北陸自動車競技グループ

アルファプロデュース

NUTECH

JMS

AD アイシン開発

ETAS

INTERFAMA

KBC

705

ENDLESS Gruppe M

KTEL REAR MONITOR

KYB ÖHLINS

TAKATA ODYSSEY

SARD APP

BRIDE BILION

TOKOH

TOKOH

WedsSport

LEXUS

Racing Development  
TRD

ADVAN  
YOKOHAMA

★☆☆☆☆  
Win Element Racing  
北陸自動車競技クラブ

アルファプロデュース

NUTEC

DOJO  
JMS

AD アイシン開発

ETAS

ENTERFAME

KBC

705

ENDLESS GruppeM

KTEL REAR WINDOW MONITOR

KYB ÖHLINS

TAKATA ODYSSEY

SARD APP

BRIDE BILION

TOYOTA

TOKOH

## 決勝後のコメント

### 織戸選手

横浜ゴムが新しいレインタイヤを造ってくれたんですが、その確認をする朝のフリー走行でアクシデント(他車に押されてコースアウト)があつて確認できなかったんです。でも、短い中でもパフォーマンスは感じられました。朝はヤバイ、ついてないなと思ったんですが、片岡選手の持ち前の明るさでモチベーションを上げてもらいました(笑)。レースは、僕はクルマを最後まで運んだだけです。終盤、43号車のミシュランが状況にあつていたので、追い上げられましたが、そこはいろいろ工夫して差を離れたら向こうが諦めてくれるかな、という感じでした。とにかくGT500とGT300で横浜ゴムのタイヤが勝ったのがなにより嬉しいです。

### 片岡選手

僕が乗った前半は、雨が多くなったり少なくなったりで難しい状況でした。でもクルマのバランスは良いことは確認しました。トップに立ってからはプッシュしたんですが、スローダウンしたクルマに引っかかってマージンを失った。そこから予選モードでプッシュしたら一度コースオフしてしまって、2番手でピットに戻りました。でもウチはピット作業が速いのは分かってましたので、トップで(コースに)戻れて、あとは織戸さんがやってくれると思ってました。でも43号車が思ったより速くて、ドキドキしました。新しいチームに移籍して、開幕戦で勝つて、とにかく嬉しいです。

### 坂東監督

横浜タイヤが新しいレインタイヤを用意してくれて、ものすごくタイヤに助けられた。スタートを深溝タイヤで行ったのも正解だった。ピットとドライバー交代もすばしかった。

フリー走行で不運があつた分運が良かったのかもしれない。また、片岡選手の仕事も完璧でした。

チームで勝ち取った1勝です。スタッフに感謝します。

まだ残り8戦あるので、シリーズチャンピオン目指して頑張ります。



アルファプロデュース

### 予選結果

1	11	JIMGAINER ADVAN F430	1' 31.860
2	19	ウェッズスポーツIS350	1' 31.964
3	43	ARTA Garaiya	1' 32.015
4	7	M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7	1' 32.103

### 決勝結果

1	19	ウェッズスポーツIS350	2:21' 11.710
2	43	ARTA Garaiya	0' 16.205
3	7	M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7	0' 28.012
4	11	JIMGAINER ADVAN F430	1' 02.218

### チームランキング

1	19	RACING PROJECT BANDO	23
2	43	AUTOBACS RACING TEAM AGURI	18
3	7	M7 RE雨宮レーシング	14
4	11	JIMGAINER	11

### ドライバーランキング

1	19	織戸 学 / 片岡 龍也	20
2	43	新田 守男 / 高木 真一	15
3	7	谷口 信輝 / 折目 遼	11
4	11	田中 哲也 / 平中 克幸	8